DENON

スピーカー システム パック

SYS-56HT

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、「保証と修理について」（☞9 ページ）をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

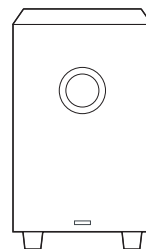
ご使用になる前に

接続のしかた

操作のしかた

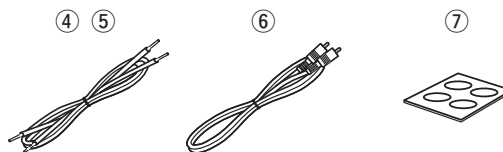
ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

ユニット構成

本書に使用しているイラストは取り扱い方法を説明するためのもので、実物と異なる場合があります。

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

①取扱説明書（本書）…1
②製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内…1
③保証書（梱包箱に貼付）…1
④スピーカーケーブル A（長さ：約 3 m）…3
⑤スピーカーケーブル B（長さ：約 10 m）…2
⑥オーディオケーブル
（長さ：約 3 m、ピンプラグコード）…1
⑦すべり止め（1 シート 4 枚）…5

取り扱い上のご注意

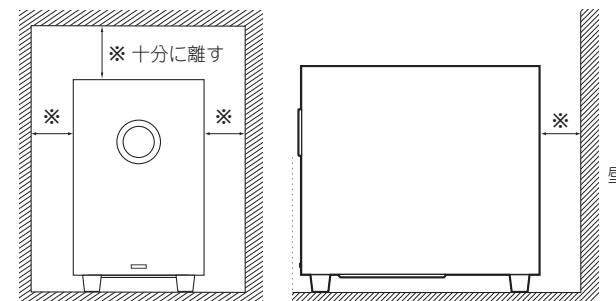
設置の際のご注意

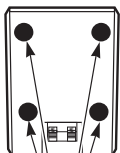
スピーカーの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたなどの影響を受けやすいため、設置については次のことにご注意ください。

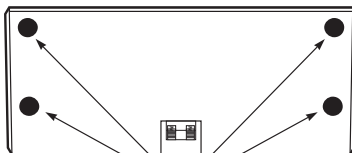
- 本機を直接床に設置すると低音が不自然に強調される場合があります。そのときは、コンクリートブロックなど固い台の上に設置してください。
- 本機をレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置すると、ハウリングを起こすことがありますので、ご注意ください。
- 本機の近くに磁石もしくは磁石を備えた家具や器具などが置かれている場合、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生させる場合がありますのでご注意ください。

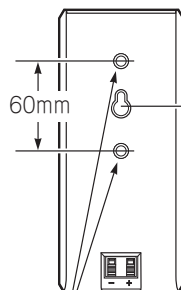
警告

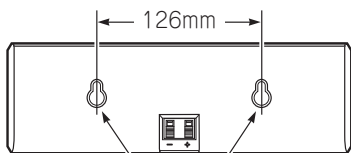
- 天井や壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- スピーカーケーブルを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は、必ず安全性を確認してください。
  また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故について当社はいっさいその責を負いません。

- 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。

設置のしかた

付属のすべり止めを底面の 4 ヵ所に貼ってください。

【SC-A56】

【SC-C56】

❑ 壁掛けまたは天井吊りブラケット（ASG-20、ASG-10、別売り）に取り付ける場合

【SC-A56】

- 背面にある壁掛け用フックを利用して、壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にねじ頭などを差し込みます。ねじは、スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。
- 天井吊りブラケットへの取り付けは、ねじ径が 5mm のねじを使用して、スピーカー背面の取り付けねじ穴にゆるみがなくなるまで完全に締め付けてください。詳しくは、天井吊りブラケットの取扱説明書をご覧ください。

【SC-C56】

背面にある壁掛け用フックを利用して、壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にねじ頭などを差し込みます。ねじは、スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。

移動させるときのご注意

- 衝撃を与えないでください。
- サブウーハーを移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他の機器との接続ケーブルを外したことを確認してからおこなってください。

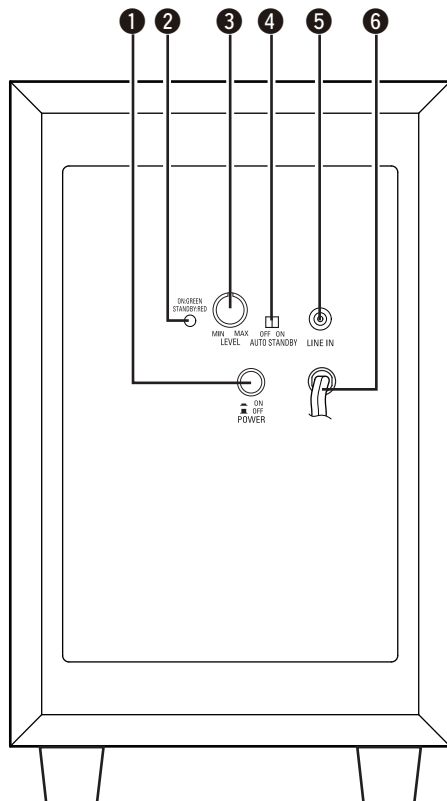
お手入れのしかた

- キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

その他のご注意

- アンプの音量を極端に大きくして歪んだ音のまま再生することは、アンプやスピーカーにダメージを与える場合があります。適正な音量でお楽しみください。
- 本機を移動させる場合、サランネット越しにスピーカー部表面に強い力を加えると、スピーカーを破損させてしまうことがありますので、ご注意ください。

各部の名前とはたらき

リアパネル（DSW-56）

❶電源スイッチ（POWER）

- “ON”にすると、数秒間のミューティング後に電源が入ります。
- “OFF”にすると、電源が切れます。

❷動作表示

本機の動作状態を表示します。

- 緑色の点灯：電源オン
- 赤色の点灯：電源スタンバイ状態
- 消灯：　　電源オフ

❸音量調節つまみ（LEVEL）

サブウーハーの音量を調節します。

❹オートスタンバイモードスイッチ（AUTO STANDBY）

ON：本機に入力される信号がない状態が 5 〜 11 分間続くと、自動的にスタンバイ状態になります。
また、スタンバイ状態のときに信号が入力されると電源が入ります。

OFF：オートスタンバイ機能は働きません。

❺ライン入力端子（LINE IN）

アンプのサブウーハー専用出力端子（SUBWOOFER OUT など）と接続します。

❻電源コード

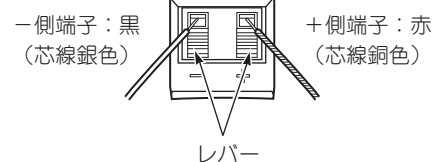
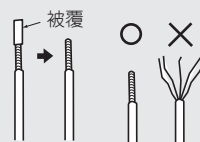
接続のしかた

接続の際は、アンプの取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。

スピーカーの接続（SC-A56、SC-C56）

- スピーカー背面の入力端子とアンプのスピーカー出力端子を付属のスピーカーケーブルで接続します。
- それぞれのスピーカーの背面ラベルには、"FR""FL""SR""SL"の表示があります。それぞれのスピーカーを次のアンプの端子に接続してください。また、それぞれのスピーカーには極性（＋、－）がありますので、極性を正しく接続してください。
  - ・"FR"：　アンプのフロント右スピーカー端子へ
  - ・"FL"：　アンプのフロント左スピーカー端子へ
  - ・"C"：　アンプのセンタースピーカー端子へ
  - ・"SR"：　アンプのサラウンド右スピーカー端子へ
  - ・"SL"：　アンプのサラウンド左スピーカー端子へ
- アンプにはいろいろなスピーカー出力端子があります。お使いになるアンプの取扱説明書を確認してください。

ご注意

- スピーカーをアンプに接続する場合は、必ずアンプの電源を切ってからおこなってください。
- 極性を間違えると、位相が変わったり低音域のない不自然な再生音になってしまいます。正しく接続してください。

1 **スピーカーケーブル先端の被覆をはずし、ケーブルの線芯を指でしっかりよじる。**

2 **レバーを押し下げて、ケーブルの先端を穴に差し込む。**

3 **レバーを離す。**

接続が終わったら、スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されていることを確認してください。

ご注意

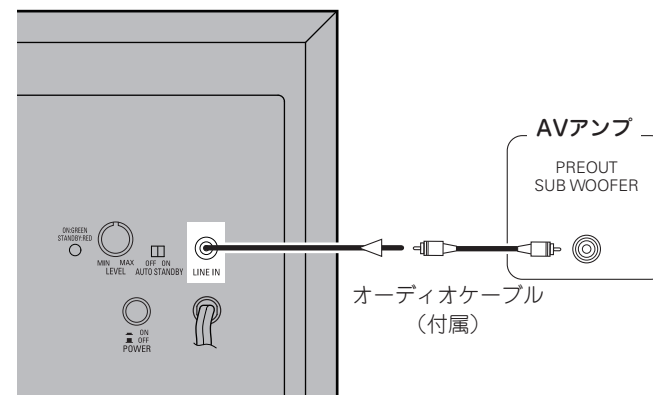
スピーカーケーブルの芯線どうしを接触させないでください。
アンプの回路がショートし、故障の原因となります。

サブウーハーの接続（DSW-56）

ご注意

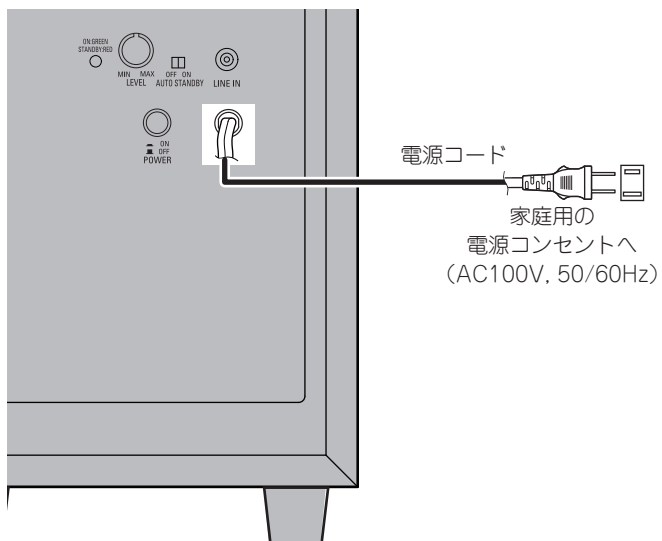
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

アンプの接続

付属のオーディオケーブルで、本機の LINE IN 端子と接続します。

ご注意

サブウーハーチャンネル以外のプリアウト端子には接続しないでください。十分な低音が得られません。

電源コードの接続

すべての接続が終わってから、電源コードを電源コンセント（AC100V、50/60Hz）に接続してください。

ご注意

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因となります。

操作のしかた

サブウーハーの操作のしかた

1 **電源スイッチを“ON”にする。**

2 **アンプの音量を調節する。**
本機の音量は、アンプの音量に連動します。

本機の電源コードを AV アンプの電源連動式 AC アウトレットに接続すると、本機は AV アンプの電源に連動してオン / オフします。この場合、本機の電源スイッチは“ON”にしておいてください。

故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう。

❏ 各接続は正しいですか

❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

❏ アンプやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項目にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

症 状	原 因	対 策	関連ページ
電源スイッチを入れても、表示が点灯せず、音も出ない。	●電源プラグの差し込みが不完全である。	●電源プラグの差し込みを点検してください。	8
表示は点灯するが、音が出ない。	●コードの接続が不完全である。 ●音量調節つまみを絞っている。 ●過大入力や温度上昇などにより保護 回路が動作している。	●しっかり接続してください。 ●適当な位置まで回してください。 ●一旦電源スイッチを“OFF”にして、1分以上放置してから再度“ON”にしてください。それでも復帰しない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。	7 6、8 6
音が歪む。	●音量が大きすぎる。 ●本機を接続したアンプ側で音が歪んでいる。	●音量を下げてください。 ●アンプ側で低音を増強しないでください。	6、8 8
発振する。 （大きな音が連続的に出る。）	●本機の音量が大きすぎる。	●音量を下げてください。	6、8
音量がアンプの音量調節に連動しない。	●アンプのサブウーハー用以外の接続端子（出力レベルが一定）に接続している。	●アンプのサブウーハー用端子に接続してください。	7

保証と修理について

保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

❏ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❏ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❏ 修理を依頼される前に

- ●取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- ●正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❏ 修理を依頼されるとき

- ●添付の『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- ●修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- ●お名前、ご住所、お電話番号
- ●製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- ●製造番号…保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- ●できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- ●お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ●この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ サテライトスピーカー　SC-A56

形式：	フルレンジ・2 スピーカー 密閉型、防磁設計
再生周波数域：	90Hz ～ 25kHz
入力インピーダンス：	6 Ω
最大許容入力：	30W（JEITA）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル：	86dB (1W・1m)
スピーカーユニット：	フルレンジ（5.7cm コーン形 × 2）
寸法：	84（幅）× 189（高さ）× 110（奥行き）mm
質量：	1.2kg

❑ センタースピーカー　SC-C56

形式：	フルレンジ・2 スピーカー 密閉型、防磁設計
再生周波数域：	80Hz ～ 25kHz
入力インピーダンス：	6 Ω
最大許容入力：	30W（JEITA）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル：	86dB (1W・1m)
スピーカーユニット：	フルレンジ（5.7cm コーン形× 2）
寸法：	263（幅）× 84（高さ）× 110（奥行き）mm
質量：	1.4kg

❑ サブウーハー　DSW-56

形式：	アンプ内蔵バスレフ型、防磁設計
再生周波数域：	30Hz ～ 200Hz
最大出力：	50W（PEAK）
入力インピーダンス：	LINE IN：22k Ω
電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	30 W
待機電力：	1 W以下（スタンバイ時）
スピーカーユニット：	16cm コーン形 ウーハー× 1
寸法：	210（幅）× 353（高さ）× 379（奥行き）mm
質量：	9.2kg

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。
※ 『防磁設計』とは、（社）電子情報技術産業協会（略称 JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。
※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購 入 店 名：	電話（　　－　　－　　）
ご購入年月日：　　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10142 005D